



筑波大学
University of Tsukuba

視覚障害者アスリートに対する 鍼灸マッサージによる競技支援

宮本俊和（理療科教員養成施設・教授）、徳竹忠司（理療科教員養成施設・講師）、濱田淳（理療科教員養成施設・講師）、
佐藤卓弥（人間総合科学研究科・博士課程3年）

背景および目的

筑波大学では、学内スポーツ選手を対象に、医師、トレーナー、鍼灸師による競技支援を行い、オリンピックを始めとした国際試合に出場したトップアスリートに対し鍼灸マッサージによる競技支援を行ってきた。

パラリンピック出場レベルの視覚障害アスリートには、鍼灸マッサージ師の免許を持っている者も少なくないが、鍼灸マッサージ活用の実態はあまり知られておらず、障害者スポーツの競技支援は健常者に比べ不十分である。障害者スポーツの競技支援の実態を把握し、鍼灸マッサージを有効に活用する方策を考える必要がある。

ブラインドサッカーを対象に、選手、医師、競技指導者、トレーナー、鍼灸師の立場から「鍼灸マッサージによる競技支援」についての課題と解決策を考える。



ブラインドサッカーの様子

実施内容及び成果

（1）IBSAブラインドサッカー世界選手権B2/B3大会での競技支援

IBSA大会（仙台、平成25年2月）に2名のトレーナー（鍼灸マッサージ師免許取得者）が帯同した。選手全員がパフォーマンス向上につながったと感じ、練習後のケア、トレーニング指導、テーピング等の処置、セルフケアの指導を望んでいた。鍼灸マッサージ免許取得者の6名中4名が鍼治療を行っていた。

（2）「ブラインドサッカーにおける鍼灸マッサージによる競技支援」シンポジウム

平成25年3月10日、東京キャンパス文京校舎にて選手、競技指導者、医師、鍼灸マッサージの免許をもったトレーナーをシンポジストとし討議をおこなった。

1) 選手からの提案

選手の体験を集積した統一テキスト作成が必要である。

鍼灸マッサージ師は、専門的知識を提供する立場にあり、スポーツ全般において疲労の早期回復などに貢献でき、視覚障害者は、選手としてもスタッフとしても、いろいろなスポーツに関わることができる。

2) 競技指導者からの提案

ブラインドサッカー普及のため、①プレー中の安全確保、②練習場所と練習環境の確保、③指導者の育成、④サポート要員の確保が重要である。特に、医療スタッフの育成・確保が遅れており、鍼灸マッサージ師の貢献が求められている。

3) 医師からの提案

鍼灸マッサージ師は、アスリートのコンディショニング：疲労回復促進、スポーツ障害の早期発見、心理的な過緊張の緩和など、セルフケアに関する適切なアドバイスが期待される。スポーツ医学に関する教育体制の整備が必要である。

4) トレーナーからの提案

視覚障害を持つトレーナーの育成に、テーピングやトレーニング指導の技術を含め、視覚障害に配慮したテキスト作成と実技講習会、実践経験の場が課題である。

視覚障害のないトレーナーは、全盲、弱視、視野狭窄など様々な障害の程度を理解し、個々の選手のニーズに合わせた指導法を効果的に伝える情報伝達技術の修得が重要である。



下腿肉離れ選手の鍼治療